

戸田康之さん『視線の意味』（7月5日配信）

こんにちは。戸田です。

今日は、ろうの子どもたちの優れた目についてお話します。

私は、ろう学校幼稚部の教員をしています。5歳児クラスを受け持っています。

先日、運動会での赤や黄色のチーム決めをすることになりました。玉入れのチーム分けです。どちらのチームに行きたいか？という話をしている時に、面白いことがありました。

子どもたちが3歳児クラスの頃は、チーム決めをする時に、それぞれの名前が書かれた札を子どもたちに渡し、黒板まで行って自分の希望するチームが書かれたところに札を貼る、というやり方でした。

4歳児クラスの時には、先生が子どもを指さし、指した子どもに「赤と黄色、どっちがいい？」と口頭で質問します。答える時には口頭の子も、名前の札を黒板に貼る子もいました。指す時には名前も呼びます。指差しして、「戸田さんはどうする？」と尋ねると、指された子どもは口頭で答えたり、名前の札を貼りに行ったりしました。

そして、今の5歳児クラスですが、子どもたちもう年長です。わざわざ名前の書いた札を貼りに行ったりするようなことはもうしません。指差しでの指名もやらないことにしました。

私が黒板に貼る名前の札を持っており、子どもたちの顔を見渡ししながら目の開きだけで指名するのです。指差しも、名前を呼ぶこともしません。子どもは、私と視線が合い目をパツと見開かれるときちゃんと指名されたことを理解し、希望するチームを答えたので、私とその答えに合わせて黒板に名前を貼りました。そしてまた次の子どもを目の動きだけで指名していき、他の子どもたちも自分が指されたことに気づいてちゃんと受け答えをしていました。

また、他の子どもはやはり視線と目の動きで指名されると、まだチームを決めかねている時には首振りでも答えていました。

このように、子どもたちは先生の視線の動きと目が合った時の目の動きで、5歳ともなれば自分が指名されたことをきちんと理解しているんです。3歳だったらまだそのようなことは難しいですね。成長するなかで少しずつ視線の使い方を身につけていき、5歳になればわざわざ指を差したり名前を呼んだりしなくても視線の動きだけで…あ、そうそう、この時は普通のマスクもしていたんですよ。目や眉だけしか見えていない状態でも、ちゃんと視線の意味を分かっています。希望するチームをきちんと答えることができていました。また、まだチームを決められていない時には首振りによって決まっていないことの意味表示をしていました。目だけでコミュニケーションがきちんと取れるんです。ろうの子どもたちの目を使う力が優れているなど実感しました。

やはりろうの子どもたちは“目の子ども”なんですね。